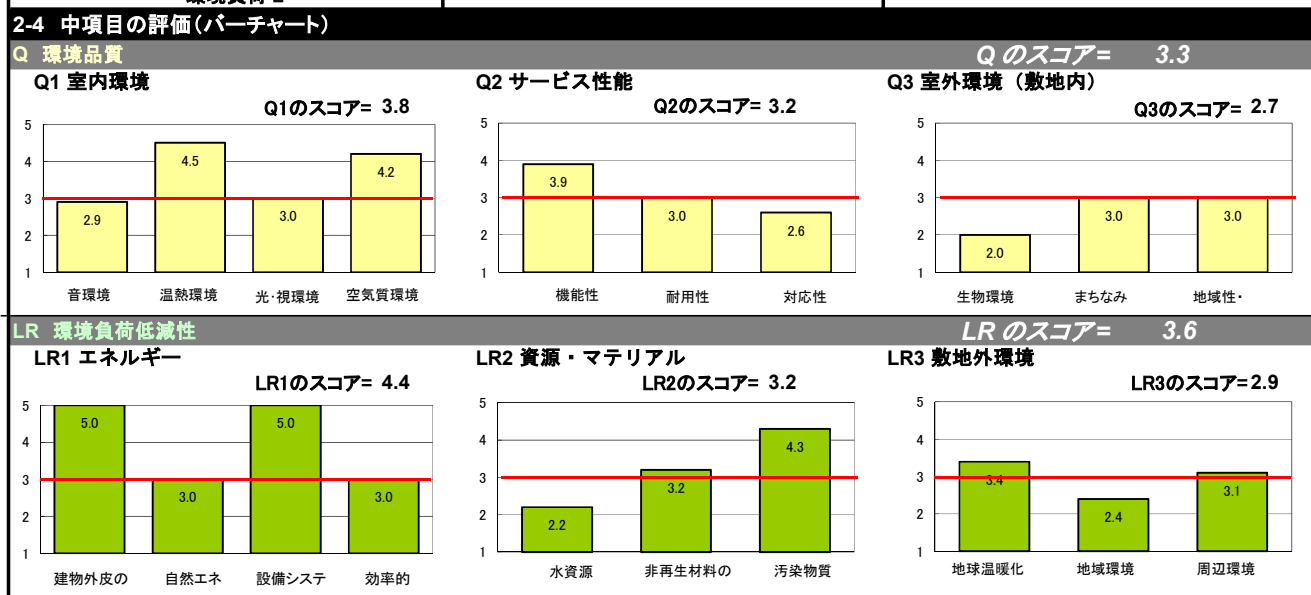
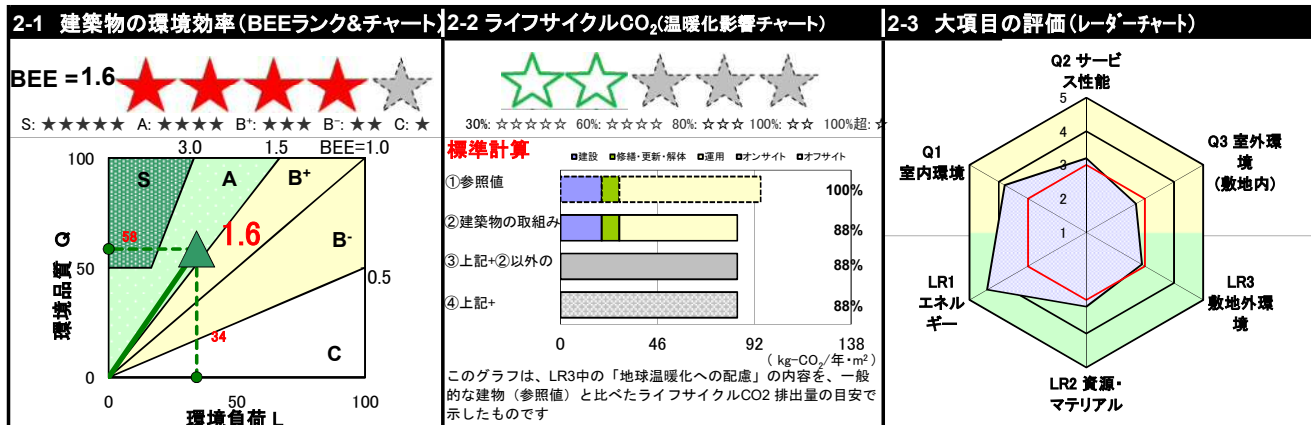


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)浜松駅前計画 新築工事	階数	地上14F
建設地	静岡県浜松市中央区砂山町336番5	構造	RC造
用途地域	商業地域	平均居住人員	364 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年11月 予定	評価の実施日	2024年4月30日
敷地面積	532 m ²	作成者	楠原愛梨
建築面積	283 m ²	確認日	2024年4月30日
延床面積	3,069 m ²	確認者	田中大介



3 設計上の配慮事項		
総合	周辺環境に配慮するとともに、建物形状や色彩が周辺環境と調和するように計画する。	その他 特になし
Q1 室内環境	室内環境向上を目指し断熱性能の向上や遮音対策等を施している。	Q3 室外環境(敷地内) 道路境界線に沿って緑地を配置することで、周辺環境に対して良好な景観となるよう配慮している。
LR1 エネルギー	設備システムを効率化し、省エネルギー化に配慮している。	LR3 敷地外環境 ・適切な駐車スペースを確保しています。 ・LCCO ₂ の排出量を低くするよう努め、地球温暖化に配慮している。
Q2 サービス性能	居室は標準的なベッド等の家具を配置できる程度の広さを確保し、天井高は2.4m以上とすることで優れた居住性能を持つ計画としている。	
LR2 資源・マテリアル	・躯体と仕上げ材が容易に分別可能なようにしている。 ・有害物質を極力使わない計画としている。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

1. 建物概要									
建物名称	(仮称)浜松駅前計画 新築工事				BEE	1.6	BEEランク	A	★★★★

2. 重点項目への取組み度									
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価						
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	2.9	/5	     	がんばろう 					
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.9	/5	     	がんばろう 					
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.3	/5	     	ふつう 					
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.3	/5	     	がんばろう 					
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上 	ふつう 3 点以上 	がんばろう 3 点未満 				

3. 重点項目についての環境配慮概要										
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。					内訳対応項目					
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)					得点 2.9					
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①室内環境向上を目指す断熱性能の向上や遮音対策等を施している。 ②住戸の南側に大きく開口を設けている。				Q-1	2	2.1	2.2	①	外皮性能
					Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備
							3.2	3.2.1	③	昼光制御
					Q-2	2	2.2	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数
							2.2.2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔	
							2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	
							2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔	
							2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔	
							2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔	
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤道路境界線に沿って緑地を配置することで、周辺環境に対して良好な景観となるよう配慮している。				Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出	
					3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上	
■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率の運用) ⑨設備システムを効率化し、省エネルギー化に配慮している。				LR-1	1			⑦	建物外皮の熱負荷抑制	
					2			⑧	自然エネルギー利用	
					3			⑨	設備システムの高効率化	
					4	4.1		⑩	モニタリング	
						4.2		⑩	運用管理体制	
■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑫躯体と仕上げ材が容易に分別可能ようにしている。 ⑬有害物質を極力使わない計画としている。				LR-2	1	1.1		⑪	節水	
						1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無	
							1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無	
					2	2.1		⑫	材料使用量の削減	
						2.2		⑫	既存建築躯体等の継続使用	
						2.3		⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用	
						2.4		⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
						2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材	
						2.6		⑫	部材の再利用可能性向上への取組み	
					3	3.1		⑬	有害物質を含まない材料の使用	
						3.2	3.2.1	⑬	消火剤	
							3.2.2	⑬	断熱材	
							3.2.3	⑬	冷媒	
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭LCCO2の排出量を低くするよう努め、地球温暖化に配慮している。				LR-3	1			⑭	地球温暖化への配慮	
					2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善	
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)					得点 2.9					
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯耐震等級2相当 ⑰構造躯体劣化対策等級3				Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性
								2.1.2	⑯	免震・制振性能
							2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備
								2.4.2	⑰	給排水・衛生設備
							2.4.3	⑰	電気設備	
							2.4.4	⑰	機械・配管支持方法	
							2.4.5	⑰	通信・情報設備	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)					得点 3.3					
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳居室は標準的なベッド等の家具を配置できる程度の広さを確保し、天井高は2.4m以上とすることで優れた居住性能を持つ計画としている。				Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画
						3	3.1	3.1.1	⑲	階高のゆとり
								3.1.2	⑲	空間の形状・自由さ
									⑲	空間の形状・自由さ
■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑道路境界線に沿って緑地を配置することで、周辺環境に対して良好な景観となるよう配慮している。				Q-3	3	3.1		㉑	地域性への配慮、快適性の向上	
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)					得点 2.3					
	■室外環境(敷地内)対策 (㉒生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上) ㉔アプローチ周りに十分な外構植栽計画を行った。				Q-3	1			㉒	生物環境の保全と創出
						2			㉓	まちなみ・景観への配慮
						3	3.2		㉔	敷地内温熱環境の向上
									㉔	敷地内温熱環境の向上
■敷地外環境対策 (㉕持続可能な森林から産出された木材/㉖温熱環境悪化の改善)				LR-2	2	2.5		㉕	持続可能な森林から産出された木材	
				LR-3	2	2.2		㉖	温熱環境悪化の改善	